

令和7年度 小金井ボランティア・市民活動センター
運営委員会（第3回）次第

1. 日 時 : 令和8年3月12日(木) 18:30~19:46
2. 会 場 : 社会福祉協議会2階会議室
3. 出席者 : 運営委員 (9名)
山路 憲夫 委員長 川畑 美和子 副委員長
尾崎 康子 竹村 雅裕 加藤 弘子 根本 礼太
松嶋 有香 森田 真希 榎本 朝美
事務局
中谷 行男 常務理事 石塚 勝敏 事務局長
小早川 良信 地域福祉係長 久保田 朱里 主事
八下田 友恵 主事
市民協働支援センター準備室
北脇 理恵 市民協働推進員
4. 欠席者 : 渡辺 一弘 中川 法子 濱松 俊彦 益田 智史
5. 傍聴人 : なし
6. 配布資料 :
 - 1) 令和7年度小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会(第3回)次第
 - 2) 小金井ボランティア・市民活動センター 令和7年度事業進捗状況
 - 3) 小金井市民協働支援センター準備室の活動状況(令和7年4月~令和8年2月)
 - 4) 令和8年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画(案)
 - 5) ぼらんていあこがねい令和8年1月1日号、2月1日号、3月1日号
 - 6) 令和7年度 若者支援講座
 - 7) 災害ボランティアミーティング 災害時のトイレと水について考えよう
 - 8) ボランティア入門講座
 - 9) 令和7年度 精神保健福祉ボランティア養成講座
 - 10) 第100回ひとりぐらし高齢者交流会

7. 議題：

- 1) 令和7年度事業の進捗状況について
- 2) 市民協働支援センター準備室の活動状況等について
- 3) 令和8年度事業計画(案)について
- 4) その他

8. 議事：

《開会》

山路委員長(以下、委員長)は、令和7年度第3回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会の開会を告げた。傍聴人の有無を確認後、議題を確認した。

委員長

時間になりましたので始めさせていただきます。本日はご多忙の中お集まりいただきましてありがとうございます。令和7年度第3回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会を開催いたします。まず初めに事務局より連絡事項をお願いします。

事務局

はい、事務局の久保田です。よろしくお願いします。

では初めに配布させていただきました資料を確認させていただきたいと思います。事前にメールで送付させていただいて、今日、紙でご用意させていただいた、こちらのホッチキス止めの小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会の次第。次に、こちらホッチキス止めの2枚綴りのボランティアセンター相談記録令和7年度の資料、こちらまた後ほど回収させていただきますのでよろしくお願いします。次に、いくつか講座のチラシを入れさせていただきまして、まずこちら、3月30日に開催される災害ボランティアミーティング、災害時のトイレと水について考えよう。こちらのチラシ、現在、開催中の若者支援講座のチラシ。次に白黒のボランティア入門講座と書かれたこちらのチラシが1枚、毎度つけさせていただいていますボランティアセンターの広報紙ぼらんていあこがねいの3月、2月、1月号になっております。過不足ございますでしょうか？大丈夫ですかね。

また本日、欠席の委員がいらっしゃいまして、渡辺委員、中川委員、濱松委員、益

田委員が欠席となっております。

傍聴人の方はいらっしゃいません。事務局からは以上になります。

委員長

はい、それでは会議を進めさせていただきます。本日の議題は次第の通りです。1つ目、令和7年度事業の進捗状況について、2つ目が市民協働支援センター準備室の活動状況等について、3番目が令和8年度事業計画(案)について、その他、以上の議題を審議したいと思います。まず、議題1から、令和7年度事業の進捗状況について、事務局よりお願いします。

議題1 令和7年度事業の進捗状況について

事務局

はい、事務局です。それでは、A3の令和7年度事業の進捗状況の資料と合わせまして、後ろのパワーポイントもご覧いただきながら進捗状況を説明させていただきたいと思います。

事務局

事務局の八下田と申します。パワーポイントを見ながら説明したいと思います。前の方ご注目お願いいたします。

12月に開催しました精神保健福祉ボランティア養成講座についてご報告いたします。前回の運営委員会でも養成講座を実施しますと申し上げましたが、予定通り全4回、12月の16日、22日、1月の6日、20日の全4回の講座を実施いたしました。申込者が29名です。4日間の延べ人数は88名でした。令和6年度、前年の養成講座の申し込みが23名、延べ人数は52名でしたので、令和6年度よりも多くのご参加をいただきました。左下の写真が講座の様子になります。場所はこちらの社協の会議室で実施いたしました。真ん中の写真、奥の女性が3回目の講師の看護師の方です。手前2人の女性が看護師さんのお知り合いで、実際ボランティアを長くしているという方にもご登壇いただきました。実際、精神保健福祉の現場でボランティアをしている方のお話があったことは、参加者の皆さんにとってもとても参考になったというご意見をいただきました。ボランティアは人のためにやっているつもりでも最終的には自分のため

になっていますというお話がとても印象的でした。4回目には当事者のお二人にもご登壇いただきまして、参加者の皆さんも当事者の話を聞いて良かったというご意見を頂いています。グループワークにも参加してもらい、とても良い会になったと思います。下に「講座終了後のボランティア・・・」とありますが、29名のうち、ボランティア団体「カフェにじ」へ参加された方が1名で、その後、B型作業所の手芸ボランティアに参加された方が1名、あと、高齢者施設傾聴ボランティアの依頼がボランティアセンターの方に来ておりましたので、そちらをご紹介して、1名の方が傾聴ボランティアを継続されております。こちらの報告は以上になります。

次は福祉教育についてご報告いたします。前回の運営委員会から後の依頼があった分のご報告です。物品貸出や車椅子体験だけではなく、福祉教育で何を子供たちに伝えたいのかということをお声がけ頂いた学校の先生とお話しし、社会福祉協議会として地域のつながりを活かして様々な団体や市民の方にご協力をいただき、出前講座を実施いたしました。一中の1年生と前原小の4年生と緑小の4年生の授業で依頼がありました。後ほど写真でご紹介いたしますが、一中は中学生ということで、障害当事者をぜひ連れてきてくださいというご依頼をいただいたのですが、身体障害や目に見える形の障害ではなくて、精神障害、知的障害など、見えない障害についても学んでほしいという話し合いの中からそのような方向になり、目に見えない障害について学ぶということで授業を実施しました。

2番目の前原小は、車椅子、高齢者体験セット、アイマスク、白杖の貸出のみ、とありますが、担当の先生と色々打ち合わせをしたのですけれども、学校の方で場所が用意できないとか、ご依頼いただいてから1週間後に授業してほしいということだったので出前講座の講師の派遣がかなわず、貸出のみとなっております。来年度からは学校の方で予算を取っていただいて早めにご依頼くださいということで、来年度以降は社協として伝えたいことを伝えることができる福祉教育にもっていきたいと考えております。

緑小の方は、障害当事者のお話と車椅子ユーザーのお話、街歩きということで実施しています。

次の写真、お願いします。写真でご紹介します。

一中の方は、左上に、こらだ環境研究所、市内にあります自立訓練事業所から鞍田所長と、利用者を研究員というふうに呼ぶそうなのですが右の3名の方が研究員の方です。あと、市内に住む大学生の方で、この方、視覚障害者なのですが、視覚障

害がありながら大学に通っていらっしゃる方が市民でいらっしゃるの、ぜひ、中学生に、障害があっても普通に学生として生活しているということをお話したいということでご登壇いただきました。右上は別日の車椅子のダンサーの天方さんに子供たちの前で講和とダンスをしていただきました。当日、急遽3人の先生に踊りに入っていただいて子供たちから歓声が上がって、面白くてためになる講話ができたと思います。右下は子供たちが車椅子の操作を学んでいるところです。

次、緑小の4年生の方から依頼があったものです。車椅子ユーザーの高校2年生の磯貝さんという方に緑小に来ていただきまして、左の写真の一番前に写っている紺と白の男性が磯貝さんなのですけれども、子供たちと一緒に町歩きを実施しました。子供たちは実際のユーザーと歩くことにより、ふざけることなく真剣に学んでいる様子がうかがえました。普段気づかなかった町中の不便さ、クラスに車椅子の友だちがいたらどうしたらいいのだろうということをすごく真剣に考えている様子でした。また別日に、右の写真になりますが、視覚障害ですが、全盲でなくロービジョンの関本さんとガイドヘルパーの川原さんに社協から依頼をして、ご講和いただきました。この写真の様子は、スライドで、ロービジョンの人の見え方こんなだよっていうことを子供たちに説明しております。白杖の人でも全盲の人とかロービジョンの人とか色々いるんだよという話で、子供たちも知らなかったことを知ることができてとても興味深く授業に参加していました。

あと福祉教育の方で、学校ではないのですが、東京都公園協会の小金井公園サービスセンターさんからご依頼をいただきまして、職員研修を実施してほしいということで12月15日に実施いたしました。災害発生時に公園に避難してきた障害者が来ていた場合に自分たち職員が避難誘導しなければいけないので、それについて学びたいというご依頼でした。左上の写真は、水飲み場のところで車椅子で実際水が飲めないよねということを確認している様子です。右上の写真は、ゴミ箱がユニバーサルデザインになっていないねという、自分たちの公園がいかにも不便な状態になっているかということをお話していただきました。左下の写真は、市民の車椅子ユーザーの渡邊さんにも、社協の方からお声がけしていただきまして来ていただいて、実際ユーザーとしてはどのように声掛けしてほしいかということをお話していただきました。福祉教育の報告は以上になります。

次に、ボランティアセンターで日々相談を受けているもののご報告と私たちの対応について、これで良かったのかということで委員の皆さんにご意見後ほど賜ればと

思います。お手元のボランティア相談報告では、7年度ご確認ください。こちらは個人情報が入っておりますので、後程、机の上に置いていただいて回収させていただきます。いくつかピックアップしてご報告したいと思います。

ナンバー136番、1月16日、種別は希望で、ボランティア希望という意味です。60代の女性の方がボランティアしたいというお電話でした。ただ自分のご予定で3月から忙しくなるので2月末までやりたいのよねと、1月16日に御来所されて、2月末までという短期間のご希望でした。子ども関係希望ということで、ちょうど市内の小学校の放課後見守りは人が足りないという情報を職員の方で把握していたのでそちらをご紹介して、2月に実際にボランティアに行かれています。放課後の見守りも有償なので、やっている方が年末に向けてちょっと収入を減らさなきゃいけないのよねということで、放課後の見守りの人たちが減っているという情報を聞いていたので丁度ご紹介しました。

次140番、1月21日、施設団体からの依頼です。市内の高齢者施設、ぬくいの杜のケアマネージャーより傾聴ボランティアを希望というご依頼でした。ご本人が68歳の女性で、高齢者施設にはお若い方で、認識がクリアな方ですというご依頼です。先ほどご紹介した右側の経過進捗状況を読み上げますが、先ほどの精神福祉ボランティア講座を修了した方で54歳の女性の方がいらっしゃったのでご案内したところ、やってみたいということでお引き合わせしてスタートしています。月1回、行っていただいております。

次144番です。1月29日、20歳の女性が来所してボランティアしたいということでした。お話を聞いているうちに、小金井に来て3カ月なのですけれども、グループホームに行って、計画相談が入っていて、訪問看護師が来ていて、作業所に行っていますということで、精神のご病気があるということを拝察しました。アップツリーという団体に興味があるということで、アップツリーにつないでいます。こちらご紹介したのは、こういう若い方で精神疾患がある方もボランティアしたいということで窓口にみえることがたまにありますのでご紹介しました。

145番です。54歳の女性がボランティアしたいということで、お電話ののち来所されました。こちらの方は小金井で両親の介護をしているが、日中時間があって何か人のためになることをしたい、週3で仕事をしていたけれども両親の予定で休むことが多く融通が利かずに辞めてしまったということです。週3の仕事も難しくて、ボランティアは自分の都合でやるものがないということで、社協2階の活動室、切手整理のボラ

ンティアをご紹介して、今、週1回、毎週通われています。

次147番です。2月9日、小児総合医療センターの心理士の方からお電話ありました。これも病院からも電話がありましたというご報告のために読み上げたものです。中学校に進学する自閉症スペクトラム、愛の手帳4の子の付き添いボランティアの相談は可能ですかということで、可能であれば保護者に情報提供、ここのボランティアセンターを紹介したいという心理士の方からのご依頼でした。可能なので相談お待ちしておりますとお伝えしましたが、1カ月経ちましたが未だに連絡は来ていません

148番です。東町の高齢男性からお電話で、市役所にお電話した後ここに紹介されたということで、世代を超えた集まり等ありますかというお電話でした。来所は今のところまだされていません。

150番です。朗読ボランティアが市内の老人ホームを訪問しますということでご報告の電話です。他の老人ホームでも実際朗読ボラやってきたのですが、そのボランティア中、職員はボランティア団体に投げっぱなしでその部屋からいなくなっちゃったんですというお話でした。社協として、おつなぎするにあたって、お互いに嫌な思いをしないようにつながなければと思った事例です。

あと3つ紹介させてください。154番です。地域福祉課のご担当の方からのお電話でした。3月に小金井に引っ越してこられた高齢者の方、社協のホームページを見て切手整理のボランティアをしたいということでした。色々詳しく聞くとメンタルの疾患がありますというお話でした。見学オーケーですとお伝えして、ボランティア保険の加入もお願いしたいという説明もし、他にも社協の方で企画している居場所とか、福祉総合の窓口ですけれども農園ボランティアや三光院というお寺の掃除ボランティアもあるので、ぜひ後日来所してくださいということをお伝えしてもらっています。今のところまだお見えになっていません。

あと156番です。包括支援センターからご連絡いただきました。高齢者の入院が決まっているのだけれど、飼っているインコの面倒をみってくれる人がいないかということで、その時点ではボランティアの範囲ではなかなか4羽をみってくれる人というのは難しいということで、お金はかかるのですけれどもペットホテルなどしかこちらでは案がありませんとお伝えしています。ただ面白い話がありまして、次の157番ですが、土日挟んで4日後にボランティアしたいという市内の女性がお見えになって登録カード記入していただいたのですけれども、愛玩動物看護師という資格を取得したということで、先日こんな依頼があったのですとお話ししたところ、じゃあぜひ飼いますと言っていた

だったので、お話進めましたが、結局高齢者の方のご家族がインコの面倒を見るということで落ち着き、マッチングには至りませんでした。

日々色々な相談があって面白いなと思いつながりながら、職員のネットワークで色々つないでマッチングをしております。また何かもっと良いアイデアがありましたら是非ご教示いただきたいと思っております。相談対応についての報告は以上になります。

最後に今後の予定です。今年度、あと、3月10日はもう実施したのですが、若者支援講座を全3回で企画しております。お手元に左端の資料を置いております。こちらは20名、3月10日は20名の参加がありました。あとは3月30日に災害ボランティアミーティングを企画しています。タイトルが「災害時のトイレと水について考えよう！」です。定員は30人としておりますが、今のところもう申込みが31人ぐらいいます。災害ボランティアでトイレと水ってすごく皆さんの興味関心があるタイトル、内容なのだなと思えました。今日で申込みを締め切るところです。

来年度ですが、4月2日、ボランティア入門講座。こちらはボランティア始めたいという人に基本の基の字をお伝えする少人数の講座です。年4回、細かく企画して、その時々窓口に来た方にご案内する予定です。5月31日ですが、梶野公園に減災フェスタがあります。出店要請をいただいておりますので車椅子体験と白杖体験を社協の方でやる予定です。パワーポイントの説明は以上です。

委員長

はい、どうもありがとうございました。只今の令和7年度事業の進捗状況について何かご質問ご意見があればいただきたいのですが。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

森田委員

森田です。学校への訪問、こらだ研究所も良く存じ上げていますし、鞍田さんも親しいのですが、実際、研究員の方々もそういった伝えたい、伝える場というものすごく知っているんですね、すごくこれも今重要だったなというふうに伺っていました。小学校でも一歩進んだ講座になって子供たちには色々考えることが多かったのではないかなと思っていました。

委員長

はい。他にいかがでございましょうか。はい、どうぞ。

竹村委員

はい、委員の竹村です。ご報告ありがとうございます。ボランティアの相談報告のところなのですが、以前よりも内容的にも詳細になって相談というのと変わってきていると思うのですが、今回も相談の内容がこれで良かったのかというご意見が欲しいというような話の中で、本当に情報として、プライバシーに関わる実名だったりとか、例えば、何さんどこ町のという話の中で、一般的に福祉でいうと、ちょっと違うのかもしれないのですが、事例検討会みたいな時って、当然、個人情報って隠した状態でご意見何うと思うのですが、結構これ本当に、私も委員として当然この情報を外に持ち出さないってところは認識してはいるのですが、多分、そういった個人情報の保護の取り扱いについて我々は取り交わしているわけでもない中で、こころ辺の情報をこのままこの委員の中で出すべきなのかなというところを一瞬ちょっと疑問に思ってしまったので、少し情報をぼかすとか、個人が特定されないような形で出すとかいうところは一度ちょっとご検討していただいた方がいいんじゃないかなってというのが、すみません、個人的な意見なのですけれども感じて。以上です。

委員長

はい、今の、確かに実名でこれ出すのは今まで例がないと思うので、その点は事務局のご対応を教えてください。

事務局

ご意見ありがとうございます。社内資料そのまま転用してしまったので、次回以降、個人名を伏せてご紹介させていただきます。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

委員長

そのほうが良いかもしれませんね。そういうことでお願いしましょう。あと他にいかがでございましょうか。はい、どうぞ。

松嶋委員

精神福祉講座の去年よりも出席者が多かったというなお話で、何かそういった工夫はされたのかなと思うのですが。興味を持った人たちにポイントを絞ってご案内したりとか、何かそういった工夫をされたこととかあったら伺いたいと思いました。

委員長

事務局どうぞ。

事務局

市内の作業所の施設の職員の方にチラシをお持ちしたり、後はボランティアセンターでなくて福祉相談総合窓口のCSWに地域に出る際に、今日のようにチラシを持って行ってもらって周知広報を他部署にもしていただいたのが効を奏したかなと思いました。CSWの力が大きかったと思います。以上です。

委員長

はい、他にいかがでしょうか。今のお話に関連して、精神保健福祉講座のボランティアの受講生が増えたというのは結構なお話だと思うのですが、その報告の中で具体的に、具体的な精神保健福祉関係のボランティアとしてのかかわりを3件ほど実際にマッチングさせたという報告がありましたけれども、ボランティアの養成、結果的にされているのが毎回30人程度だということで、その割には、ちょっと実際、なんていうのか、マッチングして、ボランティア講座受けたの実際に役に立てる方が少ないように思うのですが、もう少し広げられないかという感じがしたのですが、いかがでございましょうか。

事務局

はい、ご質問ありがとうございます。この講座はもう19回社協の方で開催しているのですが、やはり精神保健福祉という方のタイトルに惹かれて、ボランティア養成でなくて、ご自身が精神疾患だったり、ご家族や身近にいらっしゃって、そちらにご興味があって講座を受けているという方も多いので、純粋にボランティアをしたいという方がそもそも参加者で少ないというのが理由かなというふうに思います。

委員長

なるほど、分かりました。ありがとうございます。はい、どうぞ。

榎本委員

今の話で、他の地域の話でやっている講座でもなかなかその後につながるということが結構難しいねと、他の地域でも同じ悩みがあって、結構講座やりっぱなしという地域も中にはある中で、小金井は次に活躍できる場所っていうのをちゃんとご提示できているっていうのはぜひそのまま続けていただいた方がいいんじゃないかと思いました。少人数でもつながったということがとても素晴らしいと思いますし、ぜひこれが広まっていくといいなと思いました。それからボランティア相談のところも、東ボラの場合は、個人の方の依頼というのは私たち受けていないので、丁寧にマッチングするように心がけていらっしゃるのだからっていうのが相談の報告の中から見えてきたことでした。感想です。以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

加藤委員

ボランティア講座が終わった後にいくつかボランティアを募集していますっていう方の提示はされているのですか。されているというか、そんなに数は、どんな所からボランティアの依頼が来ているのかっていうのを前もちょっと説明してもらったことあるのですが、今はどんな感じなのかなっていうのと、さっき福祉教育のところで、社協としてやりたい福祉教育に向けて進めていきたいとおっしゃったのですが、社協として教育の部分というのは、この先どんな感じなのかなっていうのを伺いできたらと思います。

事務局

ご質問ありがとうございます。精神保健福祉ボランティア講座の4回目で、ボランティアセンターに寄せられている施設団体からのボランティア依頼の一覧というか、直近のものをいくつか挙げています。内容は、先ほどのボランティア相談にもありましたように、高齢者施設で傾聴ボランティアが欲しいとか、作業所で手芸ボランティアが欲しいとか、そういった内容と、後は、荷物を運んでほしいとか、精神保健福祉には関係

ないのですが、荷物を運んでほしいとか、インコを飼ってほしいとか、そういう内容が来ていますという一覧表をお示しして、後は、そうですね、一覧表をお示ししてご興味ある方はお声かけくださいということで、実際 3 人の方におつなぎできたということです。

もう一つの福祉教育の社協がどのようなことをやったかということなのですが、学校の先生からは障害者イコール支援するべき人、かわいそうな人、じゃあ私たちは何ができるかなという視点でご依頼をいただくので、障害者も普通の生活者であり、地域で暮らす一市民であり、私たちもいつどんな障害を負うか分からないですよ、というところから先生とお話しています。なので、子供たちや先生たちが支援する側で、支援される人について考えよう、ではなくて、同じ人として物事を考えて、子供たちが大人になった時にどのように自分たちが振る舞うと良い世の中になるか、ということ伝えていきたい、うまく言葉で言うのは難しいのですが、そういったことを先生と最初にお話していくと、先生もそうかという感じで少しずつ変わってくれる先生もいらっしゃいます。車椅子の方とか白杖を使っている方を最初お連れすると、子供たち、すごく怖いものを見ているようにじろじろじろ子供なので遠慮なく見るのですが、話しをして、実際に会話をすると、最後にはすごくいい顔になって、また来てねとか、学校の外で会って声かけられたという話も、行った講師の方から聞くので、すごく大事だなと思って今年の講座を終えたところです。回答になっていますでしょうか。以上です。

(拍手)

委員長

拍手も出て。他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

尾崎委員

よろしくお願ひします。先日、児童の方の教育の方の児童の集まりがありまして、学校の先生の方からお話が出たのですが、小金井という町は日中、大人が、ベッドタウンみたいところがあって、中心になって、災害とかがあると、中心になって働けるのは中学生になってくるでしょうと。学校も多いのですが、そうなった時に、結構今、中学生、小学生中学生ぐらいはボランティアに関しては非常に関心があるそ

うです。夏場とかもあるのですが、学校は年間のスケジュールが決まってしまうので、やりたいボランティアとか、そういうのにうまくマッチングするようなシステムとか、そういうのがあると、ボランティアに関心のある子が入りやすいということと、やはり、災害の時のボランティアについてもちょっと教育できればいいなというようなご意見があったのでお伝えしたいと思いました。

委員長

はい、よろしいですね、今のご意見は。他に何かございましょうか。よろしいですか。では、とりあえずは令和7年度事業の進捗状況について、これに対する質疑を終了させていただきます。

議題2 市民協働支援センター準備室の活動状況について

委員長は、議題2 市民協働支援センター準備室の活動状況について、事務局に説明を求めた。

委員長

議題2に移ります。市民協働支援センター準備室の活動状況について事務局よりお願いいたします。

センター準備室

ありがとうございます。市民協働支援センター準備室の活動について報告申し上げます。準備室は平成20年2月策定の小金井市共同推進基本方針に基づいて、市民活動団体と行政、また、市民活動団体間の協働に関してご覧の7業務を行っています。これらの業務について、令和7年11月末までは前回の運営委員会でご報告させていただきましたので、本日は12月から2月分を中心に報告させていただきたいと思っております。

まず、Ⅲ番の「活動の内容」【トピックス】ということで、毎月の主だった内容が書いてあります。ページをめくりまして、5ページになります。12月から簡単に紹介させていただきます。

12月、「地域食堂の立上」ということで、小さなお子さんがいる女性の方が相談の窓口に来られました。子ども食堂ではなくて、地域食堂、地域のおじいちゃん、おばあ

ちゃん、子供たちを巻き込んで食堂を立ち上げたいということでした。近所の方の善意の輪を広げたいということで、まだお仲間がいない、これから団体を立ち上げたいということで、まずは仲間集めです、何をしようかなというご相談でした。こちらの方では、まず地域のことということなので自治会にはやはり挨拶していただいて、仲間を増やしていただいて、それからその周りでやっている主だったイベントなどにも声をかけていただいて、社協の方からもたまたま秋の講座ラッシュというか、イベントラッシュのあったその後の反省会とかもありましたので、そこにもちょっと声をかけて来ていただきまして、色々なところで自分のやりたいことを発表していただきました。その結果、色々な方が応援するよという形になりまして着実に前に進んでおります。最初は団地の中で地域食堂をやって子供たちが学校に行く前にご飯を食べる、地域の高齢者の方が子供たちと一緒に、みたいなことを希望されていたのですが、やはり団地の集会施設というのは団地の方の為だったので難しく、代わりに、坂下の集会施設を週末に借りまして午前中にイベントを開くことになりました。まずは一歩進むということで、これから実現に向けてまだ足りないピースを合わせながらやることになっています。

2番目の1月、「NPO法人の新しい活動場所について」。こちらなのですが、昨今の賃上げで、色々な団体、固定の事務所を持っているところが大変苦勞をされております。その中の一つでやはり会場を移さなくてはいけない場所が出てきました。そのNPO法人の活動内容を理解していただけるような方に場所を貸してほしい。普通に町の不動産屋に行ったのですが、やはりお話しうまくいわずに困っているということでした。まずは、地域の土地を持っている方で貸して下さる方がいないかということで探したのですが、なかなかそういう状況は難しく、最終的には社協の中で住居支援をしている他部署、からの情報をいただきました。福祉に理解がある、営利目的のために貸すというよりは、私たちの持っている不動産を意味のある形で活用してほしいというところがあり、2か所手を挙げていただきまして、実際に、物件も紹介していただき、具体的に話が進みました。まだ進んでいる最中ではあるのですが、不動産屋さんともコンタクトを取って進んでいますので、準備室の手を離れて、不動産屋とその団体で、お話を進めている最中になっております。

2月、「ちょこっと手伝いの団体立ち上げについて」の紹介をします。こちらは、市内でも他市でも似たようなものがあるのですが、地域の方の小さな困りごとを、動ける方が有償のボランティアで支える、もちろん無料の時もありますし、地域の善意の中

でちょっとした困りごとを支えていく、そういう仕組みづくりを試みたいということ、ちょっと引きこもりのお子様を抱えているお母様が考え、すでにプランを作り実際に自分が動いていました。これをもっと広げていきたいという相談でした。お子さんを連れて他のご自宅に行っているのですが、そのお子さんが行きしぶりとかそういうこともあった方だったので、色々な方の役に立っていることにすごく喜びを感じて、高齢者の方のできない困りごとを知、自分はできる、じゃこの自分のできることをもっと広げていきたいとか、自己肯定感につながるようなお話につながっていったので、そういった形で、自分のお子さんだけではなくて他のお子さんも巻き込み、あとは、高齢者の方で動ける方にも声をかけて、まずは自分の周りの方たちから幸せの循環を作っていく、そんな仕組みづくりを有償ボランティア程度でやりたいと相談に来られました。市内市外で似たような活動をされている団体もあると伝え紹介し、活動が広がるように、ぜひ参考にさせていただきたいと話しました。その他、アドバイスになるような情報がないかを探してご紹介しています。その中で、会計報告など、お金に関する不安とのことなので、東京ボランティアセンターの方での講座や、専門家の方の相談窓口等もありますとチラシとかもお渡ししました。こういうことを学びたかったととても喜んでいただきました。あとは、地域のイベントで色々な思いや、やりたいことを抱えている方をつないで、今後の活動をさらに広げていっていただきたいと思っています。これからは何か見つけたら紹介しようと思っています。相談内容の主だったものはこの位になります。

その下の1番「相談・コーディネート業務」のところ、こちら1月21件とありますが相談実数で書いてあります。21件の内容の相談がありまして、その中の1件につき、2回とか3回とか、多いと5～6回のやりとりをしているというような形になります。ただ内容的には1件なので、それが合わさって1月は21件という形で記入しています。やはり相談というのは、4月の新年度からスタートしてから増えるもので、大体助成金とかもそういう時から動きがありますので、どうしてもこの時期は相談が少ない時期になります。ただ1月は、助成金を受けたところが報告書の書き方が分からないとか、不安を感じたことでご相談くださったりしていますので、1月は報告のための相談みたいなものが多かったという印象になります。

その下の「連絡手段」とか「案件に含まれる内容」とかは以前紹介させていただいたので、今回は割愛させていただきます。

次のページにいきまして、6ページ、情報収集ということで、市民活動団体への訪

問、先進都市への訪問ということでさせていただいていますが、こちらも随時行っておりまして、他市訪問に関しては、ちょうど明日、横浜市の協働支援センターにコミュニティ文化課と一緒に訪問させていただくことになっておりますので、そちらは次回の時に報告させていただこうと思っています。

「情報の発信」、こちらはいつものことになりますが、「ぼらんていあこがねい」に準備室専用のページをいただけてまして、その中で紹介をさせていただいています。NPO法人連絡会や福祉NPO法人連絡会の紹介ですとか、後は社協のイベントですとか、あとは東ボラのお勉強講座とか、そういったものもこちらの方で掲載させていただいています。ブログにもいくつかの情報をピックアップして掲載するようにしております。こちらの方ご覧の通りになっております。

ページめくります。4番「市民協働の推進」ということで「コミュニティ文化課とのミーティング」。こちらは来所とか電話などで随時連絡をとりながら連携しながら前に進んでいます。それ以外に、各種行事の参加ですとか、団体リストの管理等、あとは行政の協力ということでコミュニティ文化課から依頼のあるNPO法人派遣研修とか、市民協働推進委員会とか、それに関わること等、こういったところで必要に応じて協力させていただいております。

8番、こちら情報提供に関しては、窓口で相談いただいたことに限らず、普段の団体の活動の中でこういう情報があったら助かるだろうなということをごちの方でいくつかピックアップして、メーリングリスト等で情報提供するようにしています。

これで今年度2月までの準備室としての活動報告を終わります。

委員長

はい、どうもありがとうございました。只今の報告について何かご質問ご意見があればいただきたいのですが、いかがでございましょうか。

松嶋委員

ありがとうございます。先ほど地域食堂の立ち上げの件でも、みなさん窓口に行ったときにその思いがほとぼしるというか、気持ち一杯で行ってしまうところ、その思いが地域の人たちにとアドバイスがもらえることができ気持ちが整理された、気持ちが落ち着いたところすごく良かったのではないかなと思って伺っていました。あと、ちょこっと手伝いの方も実際に自分自身の子どももいるということで、

先ほどの八下田さんのお話の中でもあったように、いつも支援者の立場だけではなくて、支援を受ける側にもなる、両方の位置を行ったり来たりすることが協働につながっていくとっかかりになっていくということになったのではないかと感じて伺っていました。ありがとうございます。

委員長

他にいかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

センター準備室

すみません、準備室の方から一つよろしいでしょうか。本日、コミュニティ文化課の中川課長がお休みとなっておりますが、こちらが代読ということで原稿をいただいております。内容としては、前回お話ししました市民協働支援センター再検討委員会の進捗についてのご報告を皆様にさせていただきたいと思っております。読ませていただきます。

『コミュニティ文化課では、令和8年1月から市民協働支援センター再検討委員会を立ち上げ、平成24年に策定された小金井市市民協働の在り方等検討委員会による答申「小金井市における市民協働及び(仮称)小金井市市民協働支援センターの在り方等について」をたたき台として、センターの機能の見直しを開始いたしました。

委員構成は、学識経験者として武蔵野大学の金尾先生、社協から小早川さんに来ていただいております。その他、東京都ボランティアセンター、観光まちおこし協会、NPO法人地域の寄合所また明日、市民の図書館・公民館こがねい、小金井市市民協働推進委員会から森田委員、公募市民3人の計10人となっております。

委員会については、第1回を令和8年1月16日に開催しました。

第1回は、市長との懇談で、平成24年のあり方検討委員会の委員であった市長から、当時の考えや協働に対する思いをお話しいただき、その後、質疑応答を行い、初回から大変盛り上がりました。

第2回は1月30日に開催しました。第2回は、市から協働に係る市の経過について説明し、準備室からは準備室で現在行っている事業について説明していただきました。

準備室の具体的な事例等の話があったことで、第2回についても、質疑応答が活発

に行われ、大変盛況な回になりました。

第3回は2月20日に開催しました。第3回では3つのグループに分かれ、協働相手の範囲、協働の理念、参加の促進・包摂・担い手を増やすこと等について意見を出し合うワークショップを行い、この回でも多くの御意見をいただきました。

3月30日には、第4回市民協働支援センター再検討委員会を開催する予定です。

また、令和7年度に引き続いて、令和8年度中に委員会を4回開催し、検討を進める予定です。

今後の予定になりますが、再検討委員会での検討をもとに、令和9年度中にセンター運営事業者を公募し、同じ令和9年度中のセンター開始を考えております。』

以上になります。

委員長

はい、ありがとうございます。色々な協議が進んでいるということですね。何かこれ聞いてご意見ご質問ございますか。森田委員、小早川係長の方から何か付け加えていただくことございますか。では小早川係長どうぞ。

小早川係長

前回のあり方検討委員会では山路委員長にも大変お世話になりました。すごく良いものができたと当初思っておりました。今回の再検討委員会では、それを基に今度新しいセンターを立ち上げるということで始めたのですが、コンサルの方も入り、1回目は市長の思いを語っていただきました。現市長が初めて市民として、市の公募委員でいらしたのは覚えています。現在は、グループワーク中心で検討しております。協働とは何かを改めてまたみんなで話し合っているところです。ただ、個人的に思っているのは、今準備室でおこなっている団体支援だったり、団体が相談に来たり、立ち上げを考えているというときに、現状はボランティアセンターと連携しながらやっています。ただ、どうしても協働というと行政と市民団体をつなぐということテーマにしているので、なかなかイメージが湧きづらいというか、双方にとって、市民団体にとっても行政と手を組むことによってさらに良くなるのか、そういったのが多分皆さん何となくしか分からない印象でした。例えば、コミュニティ文化課が色々な課にアンケートしていて、「あなたの課が市民団体と協働していますか」、という問いに対して大体していま

す。と回答しておりました。ただ、内容をよく見ると、例えば、公民館をNPO法人に委託してますとか、社会福祉協議会に委託してますとか、それも協働として回答していました。はたしてそれが本当に協働という形で行っているのかというところが、率直に疑問に思ってしまうして、協働って考えが難しいなというのが今のところ、感想になります。

森田委員

そうですね、それぞれの委員の、今、小早川さんもおっしゃったように、イメージがそれぞれってところがまだ大きいなという感想を持っています。もちろん行政と市民でもあるし、市民と市民、市民と企業とか、あと小金井市という枠を飛び越えても良いわけですし、他市、他の自治体でもいいわけですし、あともっと初めのところ、そういうイメージとか発想を持って進めるように私もしたいなというふうに思いました。

委員長

はい、ありがとうございました。これからの議論の成果に期待したいと思います。他に何かございましょうか。よろしいでしょうか。それでは、この件に関して、市民協働支援センター準備室の活動状況についての議題はこれで終わらせていただきます。

議題3 令和8年度事業計画(案)について

委員長は、議題3 令和8年度事業計画案について事務局に説明を求めた。

委員長

それでは、議題3 令和8年度事業計画案について事務局よりお願いいたします。

事務局

では、8ページに移っていただきまして、令和8年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画(案)に関しまして説明させていただきたいと思っております。

令和8年度の基本方針に関しましては前回ご説明させていただいたところと変わらずなのですが、先ほど尾崎委員よりご指摘いただきました、例えば、4番の「災害に強い街づくりの推進」というところで、災害時に活動できるボランティアの育成、支援体制の確認などにしっかり取り組んでいくということも重点的にやっていきたいと思っ

ております。(1)から(4)の基本方針を基に事業計画案を、前回ご指摘いただいたところを修正させていただいて作らせていただきました。

それでは9ページ、10ページに移っていただければと思います。9ページと10ページに関しましては文言や内容の変更等は行っておりません。

では次に11ページに移っていただいて、②の「ITによる情報の発信」というところですね、【内容】のところ、小金井ボランティア・市民活動センターホームページ、Facebookにて各種講座やイベントの広報を行っていきます、と書かせていただいたのですが、前回の委員会では、社協ホームページの検討委員会がありまして、そちらで検討しますという形でぼんやり書かせていただいたのですが、社協のホームページの方にここ半年ぐらいですかね、先ほどご説明させていただいた福祉教育の報告であったりとか、あとは災害のイベントに参加しましたよというような内容を社協の方のホームページの報告としてアップさせていただいておりまして、そちらとドッキングするのもいいのではないかなというふうに考えております。というのも、前回の委員会の中で竹村委員よりご指摘いただきましたhttpsへの移行に関してセキュリティ面で問題があるというところで、こちらhttpsへの移行を試したのですが、ホームページの仕様が大きく変わってしまって非常に見づらいと、なかなかうまくいかないというところがあって、こちらをどうしようかなというところを検討しているところです。まだちょっと結論は出ていないのですが、そういった問題もあるので、社協のホームページの方を充実していくというのほうがいいのかなと思っております。ITによる情報発信の変更のところは以上になります。

次に、11ページの③夏のボランティア体験学習のところなのですが、文言の変更は行っておりませんが、先ほど、尾崎委員よりご指摘いただきました通り、小学生中学生のボランティア活動の機会というところなのですが、こちらも夏のボランティア体験でその小学生中学生をボランティア体験をしていただきたいというところで、校長会や市報や学校や先生と生徒にチラシを配らせていただいたり、夏ボラの早い段階で、できるだけ早く広報をしているという状態です。そういったところで、ボランティアを拾っていったらいいなと思っております。ボランティア体験のところは以上になります。

④「発達障害啓発事業」のところも特段変わっておりません。また、11ページのところも特段変わっておりません。

(5)ボランティア育成の①ボランティア入門講座のところは、何度かお伝えさせてもらっておりますが、年4回、コンスタントに講座を行い、色々なボランティアを養成した

いなと思っております。

次のページに移っていただいて、文言を変更させていただいたのが、2の「地域福祉活動推進事業に関する計画」の(2)福祉教育の推進、というところで、先ほど八下田からご報告させていただいたところと被るのですが、物品の貸出し、車椅子体験というところだけではなく、福祉教育で何を伝えたいのか、学校の先生など担当者の方と事前にしっかり打ち合わせをして、社協として地域のつながりを活かして、さまざまな団体、市民の方にご協力いただいて、広報を実施していくというところに変更させていただいております。

最後に14ページに移らせていただいて、すみません、文字の修正を1点だけお願いします。3の「大規模災害対策に関する計画」の①「災害ボランティアセンター運営に関する訓練及び研修」の「内容」のところ、「市総合防災訓練に参加への参加」となっているのですが、「防災訓練への参加」というところで「に参加」を消していただくとありがたいです。市の総合訓練への参加や東ボラ主催の災害の研修であったり、町会のまち歩きへの参加や自主防災組織の会議への参加を通して発災に備えていきたいと思っております。

次、②の「災害ボランティアミーティングの開催、防災に関するネットワークの構築」というところですが、少しだけ【内容】のところも変えさせていただきます。読み上げさせていただきます。

『継続して災害ボランティアミーティングを開催して市民の情報共有等を行ってまいります。

災害ボランティアセンター設置訓練、防災まち歩き等のスタッフとしての参加を促します。

東京災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議(第3期)の動向を踏まえまして、JC、青年会議所との災害時の協定の締結に向けた話し合いを進めていきたいと思っております。』

事業計画案に関しては以上になります。

委員長

はい、どうもありがとうございました。只今の事業計画案について、ご意見をいただきたいと思っております。ご質問でも結構です。いかがでございましょうか。

竹村委員

はい、竹村です。ホームページの件は多分、SNS化すると崩れるというのはよくあるあるなので、今後、本当に社協の本体のところで情報発信をしていくとしたときにボラセン側のホームページを今後どうしていくのか、完全にリニューアルしていくのか、検討になるのかなと思いますので、大変だと思いますけれどもご検討いただければと思います。あと、他の社協でも今もうSNSの発信がほとんどインスタグラムに多分なっているのじゃないかっていうところなのですが、そのあたりのSNSの活用もインスタグラムみたいなのを使っていくのかどうかというところの検討が今されているのかどうかというところについて1点質問をさせていただければと思います。

あともう1点、感想に近いのですが、うちの法人でも今事業計画を作っているところで、その作った事業計画は作った後に読み返すと問題もあるのですが、先ほど言ったように、方針のところ、数年前にも僕が感想で言った気がするのですが、今年はここを重点的にやっついこうみたいなところがある程度明確になっていると、今年はここに力を入れているんだなとぱっと見ても分かるのかなと思うので、先ほど冒頭では、災害のところの話もあったのですが、そのあたり、令和8年度はここを中心やっていくというところが事業計画の方でもすごく分かりやすくなっているといいのではないかと感じたところです。これが感想です。質問1点と感想、以上です。

事務局

ご質問ありがとうございます。インスタグラムの活用等に関しては、なかなかボラセンだけインスタグラムやフェイスブックをやるというのは難しいところがあるので、社協全体で考えるというふうになった時に、始めるのは簡単なのですが、なかなか全体との兼ね合いでうまく進んでいないというところが現状です。それで大丈夫ですか。

石塚事務局長

今、久保田の方から難しそうな話をしているわけですが、今、ホームページの検討委員会を立ち上げて1年ちょっと経って、ようやくホームページ両方ちゃんと作り上げて、今、SNSのことやらなくちゃいけないというふうなことで、もともとSNSに関する書いたものがあつたのですが、それもちょうと見直さなければいけないという話になっていますので、私もなかなかSNSって全部使いこなせていないのですが、只今おっしゃったように、どんどん移り変わっていく、新しいものに移り変わって

いくという状況がありますので、そういったものはしっかり捉えて、委員会の方に返していきながら、我々として管理運営がしっかりできて、皆さんに市民の方にしっかり情報をお伝えできるようにと考えておりますので、ご意見は大変貴重なご意見だったと思いますので、そういった形で受け止めさせていただいて、今後に活かさせていただきたいと思います。はい、以上となります。

委員長

あとはよろしいですか。他にいかがでございましょうか。はい、どうぞ。

榎本委員

今のインスタとフェイスブックの話になるのですが、フェイスブックの投稿をしているのであれば、インスタグラムとフェイスブックは同時投稿ができるので、せっかく記事を作っているのであればインスタグラムの方にも掲載された方がいいのではないかなと思うのです。2個投稿しなければならないとなると手間だと思うのですが、結局1個で済むのですね。いま丁度インスタとフェイスブックをやっているのですが、なんとなくフェイスブックの発信は災害系のおじさんたちが結構見ている。インスタグラムの方が幅広く見ている方が多いのではないかなと思っていて、なので、もし世代として色々なもうちょっと若い人とかにも届けたいなという情報は、できればフェイスブックだけではなくてインスタグラムの方も投稿されておいた方が見てもらえるのではないかなと思っています。

委員長

はい、どうぞ。

松嶋委員

私は自分の仕事の発信をXとフェイスブックとインスタでやっているのですが、フェイスブックとインスタはさっきおっしゃったように親会社としてつながっているのです、一つのページで二つ投稿ができるのです。ただ、さっきおっしゃったように客層が全然違うんですね。それで、同じこういうことを伝えたいんだよというのをAIに投げて、ツイッター用の分とインスタ用の分とフェイスブック用の分に作ってもらっているのです。もちろんプロンプトはきちんとしないとイケないのですが、見ている年代とかが分析

できるので、そのデータを投げて、インスタでこういう年代の人に見られている、フェイスブックでこういう年代の人に見られている、ツイッターはこういうお客さんが多いというところを投げて、この課題について文章を作ってくれ、制限文字数が全然違うので。それでインスタとフェイスブックは同じページで管理できて、しかも、あなたの記事は何時ぐらいが一番多く見られていますって行ってAIが推薦してくれるので、その通りにやっているとちゃんと反応が返ってくるので、今すごく便利になっているので。もし分からないなら教えますので、そういうふうに使くと、たった一つの情報を3カ所に流せる。しかも、私はそれをブログやノートにもリライトしてくれてって言って、私の今しゃべったこと、10分間しゃべったことを2000文字できれいにしてくれ、それにふさわしいイラストを描いてくれ、全部できるので、トータル1週間分の予約投稿でトータル1時間です。そんなことが今できちゃうので、その1年半、何してたんだよって感じなんですけど、とっととやって、完成したものを初披露するよりも、どんどんやってリアクションを見て、この時間帯だったら大学生からのアクセスが多いんだとか、ニーズが分かってくれば出す内容とかも変わってくると思うので、もうどんどん回しちゃって、フィードバックによって内容をブラッシュアップしていった方がいいかなと思います。

委員長

はい、よろしいですか、特にご意見。はい、どうぞ。

中谷常務理事

私も不勉強で、今聞いてですね、そういうことなのかということもございましたので、できることからできるだけ早くしていきたいと思っておりますので、分からない時にはぜひちょっと教えていただいたりというふうなことも併せてお願いできればと思っております。以上となります。

委員長

はい。他に何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

議題4 その他

委員長は、議題4 その他 について事務局に説明を求めた。

委員長

それでは、議題4のその他に入ります。何かございますでしょうか。では、事務局の方からどうぞ。

事務局

はい、事務局です。

令和8年3月31日付で第10期のボランティア・市民活動センターの運営任期が終了いたします。また、来年度以降、更新させていただく旨の通知を皆様にお出しいたしますので宜しくお願い致します。以上です。

委員長

はい、よろしいでしょうか。特に何か言い足りない点、ご質問ございましたら、改めて最後に承りたいのですが。よろしいですか。それでは、なければ以上をもちまして令和7年度第3回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会を終了いたします。次回、令和8年度第1回運営委員会の日程は、副委員長および事務局と調整してご連絡申し上げます。本日はどうもありがとうございました。ご苦勞様でございました。

《閉会》

以下 余白